

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|--------|-----|
| 事業所番号 | 0495200537 | | |
| 法人名 | 有限会社奏樹 | | |
| 事業所名 | グループホームみやぎの杜 | ユニット名: | ひばり |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 2 月 19 日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 3 月 23 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切に、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR東北本線岩切駅から東に車で10分程の住宅街に在り、軽量平屋建で3ユニットである。日常的に七北田川河川敷を散歩したり、近くの公園で花見や紅葉を楽しむことができています。「利用者の声に寄り添い、様々な願いを叶える」等のユニット目標を立て、入居者が娘の結婚式に参加したい思いに職員が付き添うなど支援している。コロナ禍は抗原検査をして面会をしていたが、3月からは感染予防の基本を守り面会の実施を行っている。目標達成計画の「地域との交流」については、新年度よりコロナ禍の対応が緩和される為、継続するとした。職員の資格取得には法人の勉強会や負担補助の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみやぎの杜)「ユニット名 ひばり 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域に愛される施設であるよう取り組んでいます。ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。 | 法人理念を基に、ユニット目標の「会話を多く持って入居者に笑顔を多く過ごして頂く」等を事務所に掲示している。職員は、日常生活の関わりで本人の思いを汲み取り共有している。上半期と下半期に振り返っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事(夏祭り等)や避難訓練等に参加させて頂いたり、保育園の行事に参加し、交流に努めていましたが、コロナ禍で現在は中止となっています。事業所では毎月、新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。 | 町内会に加入しているが、コロナ禍のため地域行事の中止等で交流が行われていない。地域の方から入居に関する相談が有り対応している。「みやぎの杜新聞」は近所に住む家族や大家に届けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。(現在は、コロナ禍の為、開催を中止して郵送しています) | コロナ禍で書面での郵送が続いている。日常の様子やコロナの感染予防対策、イベントについての状況等を記載して、地域包括職員や町内会長、家族等に届けている。コロナ対応の労いの言葉を貰っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 現在、コロナ禍の為、開催を中止していますが、運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいていた。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。 | 市には入院に関しての相談や助言を貰ったり、生活の状況報告等をしている。包括支援センターに地域に住む一人暮らしの方の対応について相談している。保健所からディスプレイ手袋の支給があった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。 | 職員から不適切なケア(グレーゾーンカード)についてアンケートを取り、身体拘束廃止委員会で集計し分析して対策を話し合っている。議事録を回覧して職員の共有を図っている。センサーマットは、本人と家族の了解を得て設置し、安全安心な支援に努めている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。 | 虐待防止マニュアルを職員に配布し、勉強会を行い振り返っている。馴れ合いの言葉使いから子ども扱いになったり、強い口調で委縮させないように取組んでいる。管理者は細めに声掛けし、負担軽減に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や制度改定時は、内容について説明を十分に行い、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。 | 面会時に家族の声を聴けるようにしている。座位が難しくなった時にリクライニング車椅子にして欲しい声に応えた。一人散歩で戻れない方に、GPS装着の相談を家族にしている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。 | 面談や職員アンケートで聞いている。ホーム内の段ボール処理を法人施設の協力により改善した。老朽化したウツデッキは新しく交換し、安全で快適に利用している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行うことを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております) | 法人の研修会「利用者さんとの関わりについて」等で、他の事業所や医療関係者と交流した。ホームから「当たり前の事が出来るようにサポート」をテーマに発表した。訪問看護師に入居者の健康管理等相談している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実態調査時等にて得た、ご本人の想いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、バックグラウンドアセスなどご家族に協力を得て頂いております。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、常にご本人が自己決定していただくように配慮しております。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたり関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。 | 抗原検査をして娘や孫、友人が面会に来ている。家族と園芸センターや故郷の女川に出かけている。福島の友人と手紙で交流の方は、せんべいが送られてきた。年末に家に戻る方もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者の性格や相性でトラブルが起きないようにスタッフが間に入り良好な関係を築いています。コミュニケーションが難しい方にもスタッフが配慮し、他ご利用者と交流が図れるよう支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員のミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。 | 入居時にバックグラウンドを確認し、家族や日々の会話などからも情報を得ている。食べたい希望の寿司は出前で取ったり、きりたんぼパーティは皆で作って味わったりしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。 | モニタリングを3か月毎に行い、本人や家族の希望が活かされ、6か月毎に見直しをしている。介護計画指標は書面にて伝えている。家事支援の継続では、食器洗いや洗濯物干しとた込みが多い。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようになっています。 | 訪問診療は26名が利用している。夜間や体調変化時の対応も有り、オンコール体制が取れている。訪問看護師は週2回来訪し、健康管理をしている。入居者は訪問歯科診療と口腔ケアの助言を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院に足を運んで、入院の不安を解消できるよう努め、早期に状態や治療内容を医師から説明いただき、退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています。 | 入居時より指針を説明して、人生会議で本人や家族の意向確認をしている。看取りに関する指針に基づいて、医師や看護師の連携のもと支援に取り組んでいる。今年度は10名の看取りを行った。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。 | 夜間想定避難訓練を年2回実施している。避難通報や避難誘導は目的地の公園まで予定通り行えた。「点呼確認に時間がかかった」等の反省と、大家参加の見守りはあったが、近隣住民の協力体制を課題としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。 | 入居者を呼ぶ時は「さん」付けである。居室には、ノックや声掛けの意思確認をして入室している。プライバシー研修を行い、言葉使いや声掛けを自分の家族だったらとの思いで支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をすることも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | コロナ禍ですが、ご利用者の声に合わせてレクリエーションや散歩、ドライブ、座ってお話をするなど、今できる活動について配慮し、柔軟に対応をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 重度の方が多く、外出は限られた方しか出れない場合が多いですが、身だしなみに注意して支援しています。外出する場合に限らず、その人らしい服装で生活できるよう支援しています。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理や片付け、味見などご利用者ができることを一緒に行っています。また、お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生日やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。 | 法人の栄養士や訪問看護師から助言を貰い、献立と調理は職員がしている。昼食の副食は外注である。誕生日の方の希望を取り入れた寿司やケーキが喜ばれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。 | 身体状況に応じて、座位保持の方はトイレでの排泄を基本にし、ソワソワ行動やタイミングの声掛けで誘導している。夜間はベッドでの交換が多く、ポータブルやセンサー使用で安全誘導の方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品、水分量など便秘の予防と改善に努めています。また、散歩や体操などのレクリエーションを通じて身体を動かす機会を設ける工夫を行っています。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間の変更や別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。 | 週2回の入浴としている。温度は38～40度で個別に対応している。入浴時は殆どが支援が必要で、重度の方は機械浴で2人介助を行っている。檜風呂があつたり入浴剤や柚子を入れて楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたりと、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、会話の中から行きたい所を聞くなどして外出につなげたり、花を植えるなど生活を通じた楽しみごとの支援を大切にしています。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えられるように個別に対応するよう心掛けています。 | 紅葉を見にドライブをしたり、多賀城のイルミネーション見学に行った。天気の良い日には、隣の公園や七北田川河川敷を散歩している。ウッドデッキでお茶や日光浴を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。 | ホールにはカレンダーや時計が見易い場所に設置されている。テレビを見たり、ソファでゆったり過ごしている。夏は七夕の吹き流しを作って飾ったり、秋には干柿作りをして皆で食べたり等、季節を感じて過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビを見たい方はソファに座り鑑賞されたり、一人になりたい方は和室で休まれたり、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、スタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 必要な備品等に関して、ご本人が大切にいらしたものの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りを努めています。 | 本人、家族と相談して馴染みの筆筒やテレビを持ち込み、位牌を置いている方もいる。居室では、テレビを見たり、ゆっくり休んで居心地良く過ごせている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|--------|-----|
| 事業所番号 | 0495200537 | | |
| 法人名 | 有限会社奏樹 | | |
| 事業所名 | グループホームみやぎの杜 | ユニット名: | かもめ |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 2 月 19 日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 3 月 23 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切にし、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR東北本線岩切駅から東に車で10分程の住宅街に在り、軽量平屋建で3ユニットである。日常的に七北田川河川敷を散歩したり、近くの公園で花見や紅葉を楽しむことができています。「利用者の声に寄り添い、様々な願いを叶える」等のユニット目標を立て、入居者が娘の結婚式に参加したい思いに職員が付き添うなど支援している。コロナ禍は抗原検査をして面会をしていたが、3月からは感染予防の基本を守り面会の実施を行っている。目標達成計画の「地域との交流」については、新年度よりコロナ禍の対応が緩和される為、継続するとした。職員の資格取得には法人の勉強会や負担補助の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみやぎの杜)「ユニット名 かもめ 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I.理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域に愛される施設であるよう取り組んでいます。ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。 | 法人理念を基に、ユニット目標の「会話を多く持って入居者に笑顔を多く過して頂く」等を事務所に掲示している。職員は、日常生活の関わりで本人の思いを汲み取り共有している。上半期と下半期に振り返っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域の行事(夏祭り等)や避難訓練等に参加させて頂いたり、保育園の行事に参加し、交流に努めていましたが、コロナ禍で現在は中止となっています。事業所では2か月に一度新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。 | 町内会に加入しているが、コロナ禍のため地域行事の中止等で交流が行われていない。地域の方から入居に関する相談が有り対応している。「みやぎの杜新聞」は近所に住む家族や大家に届けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。(現在は、コロナ禍の為、開催を中止して郵送しています) | コロナ禍で書面での郵送が続いている。日常の様子やコロナの感染予防対策、イベントについての状況等を記載して、地域包括職員や町内会長、家族等に届けている。コロナ対応の労いの言葉を貰っている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 現在、コロナ禍の為、開催を中止していますが、運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいていた。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。 | 市には入院に関しての相談や助言を貰ったり、生活の状況報告等をしている。包括支援センターに地域に住む一人暮らしの方の対応について相談している。保健所からデイスポ手袋の支給があった。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。 | 職員から不適切なケア(グレーゾーンカード)についてアンケートを取り、身体拘束廃止委員会で集計し分析して対策を話し合っている。議事録を回覧して職員の共有を図っている。センサーマットは、本人と家族の了解を得て設置し、安全安心な支援に努めている。 | | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。 | 虐待防止マニュアルを職員に配布し、勉強会を行い振り返っている。馴れ合いの言葉使いから子ども扱いになったり、強い口調で委縮させないように取組んでいる。管理者は細めに声掛けし、負担軽減に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や制度改定時は、内容について説明を十分に行い、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。 | 面会時に家族の声を聴けるようにしている。座位が難しくなった時にリクライニング車椅子にして欲しい声に応えた。一人散歩で戻れない方に、GPS装着の相談を家族にしている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。 | 面談や職員アンケートで聞いている。ホーム内の段ボール処理を法人施設の協力により改善した。老朽化したウツデッキは新しく交換し、安全で快適に利用している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行うことを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております) | 法人の研修会「利用者さんとの関わりについて」等で、他の事業所や医療関係者と交流した。ホームから「当たり前の事が出来るようにサポート」をテーマに発表した。訪問看護師に入居者の健康管理等相談している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実態調査時等にて得た、ご本人の想いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、現在の生活や関係性、ご本人やご家族の想いを継続できるよう、関係作りにも努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、常にご本人が自己決定していただくように配慮しております。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたり関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。 | 抗原検査をして娘や孫、友人が面会に来ている。家族と園芸センターや故郷の女川に出かけている。福島の人と手紙で交流の方は、せんべいが送られてきた。年末に家に戻る方もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者の性格や相性でトラブルが起きないようにスタッフが間に入り良好な関係を築いています。コミュニケーションが難しい方にもスタッフが配慮し、他ご利用者と交流が図れるよう支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員のミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。 | 入居時にバックグラウンドを確認し、家族や日々の会話などからも情報を得ている。食べたい希望の寿司は出前で取ったり、きりたんぼパーティは皆で作って味わったりしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。 | モニタリングを3か月毎に行い、本人や家族の希望が活かされ、6か月毎に見直しをしている。介護計画指標は書面にて伝えている。家事支援の継続では、食器洗いや洗濯物干しとたまたみが多い。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようとしています。 | 訪問診療は26名が利用している。夜間や体調変化時の対応も有り、オンコール体制が取れている。訪問看護師は週2回来訪し、健康管理をしている。入居者は訪問歯科診療と口腔ケアの助言を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院に足を運んで、入院の不安を解消できるよう努め、早期に状態や治療内容を医師から説明いただき、退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています。 | 入居時より指針を説明して、人生会議で本人や家族の意向確認をしている。看取りに関する指針に基づいて、医師や看護師の連携のもと支援に取り組んでいる。今年度は10名の看取りを行った。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。 | 夜間想定避難訓練を年2回実施している。避難通報や避難誘導は目的地の公園まで予定通り行えた。「点呼確認に時間がかかった」等の反省と、大家参加の見守りは有ったが、近隣住民の協力体制を課題としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。 | 入居者を呼ぶ時は「さん」付けである。居室には、ノックや声掛けの意思確認をして入室している。プライバシー研修を行い、言葉使いや声掛けを自分の家族だったらとの思いで支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をすることも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | コロナ禍ですが、ご利用者の声に合わせてレクリエーションや散歩、ドライブ、隣に座ってお話をするなど、今できる活動について配慮し、柔軟に対応しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 重度の方が多く、外出は限られた方しか出れない場合が多いですが、身だしなみに注意して支援しています。外出する場合に限らず、その人らしい服装で生活できるよう支援しています。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理や片付け、味見などご利用者ができることを一緒に行っています。また、お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生日やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。 | 法人の栄養士や訪問看護師から助言を貰い、献立と調理は職員がしている。昼食の副食は外注である。誕生日の方の希望を取り入れた寿司やケーキが喜ばれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。 | 身体状況に応じて、座位保持の方はトイレでの排泄を基本にし、ソワソワ行動やタイミングの声掛けで誘導している。夜間はベッドでの交換が多く、ポータブルやセンサー使用で安全誘導の方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品、水分量など便秘の予防と改善に努めています。また、散歩やレクリエーションを通じて身体を動かす機会を設ける工夫を行っています。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間の変更や別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。 | 週2回の入浴としている。温度は38～40度で個別に対応している。入浴時は殆どが支援が必要で、重度の方は機械浴で2人介助を行っている。檜風呂があったり入浴剤や柚子を入れて楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたりと、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、会話の中から行きたい所を聞くなどして外出につなげたり、花を植えるなど生活を通じた楽しみごとの支援を大切にしています。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えられるように個別で対応するよう心掛けています。 | 紅葉を見にドライブをしたり、多賀城のイルミネーション見学に行った。天気の良い日には、隣の公園や七北田川河川敷を散歩している。ウッドデッキでお茶や日光浴を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。 | ホールにはカレンダーや時計が見やすい場所に設置されている。テレビを見たり、ソファでゆったり過ごしている。夏は七夕の吹き流しを作って飾ったり、秋には干柿作りをして皆で食べたり等、季節を感じて過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビを見たい方はソファに座り鑑賞されたり、一人になりたい方は和室で休まれたり、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、スタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 必要な備品等に関して、ご本人が大切にいらしたもの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りに努めています。 | 本人、家族と相談して馴染みの筆筒やテレビを持ち込み、位牌を置いている方もいる。居室では、テレビを見たり、ゆっくり休んで居心地良く過ごせている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|--------|-----|
| 事業所番号 | 0495200537 | | |
| 法人名 | 有限会社奏樹 | | |
| 事業所名 | グループホームみやぎの杜 | ユニット名: | つばめ |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区岩切字余目11番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5 年 2 月 19 日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 5 年 3 月 23 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念にもありますように「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を大切にし、ご利用者と一緒に、同じ空間の中で居心地良く過ごせるような事業所を目指しています。一人ひとりの想いに耳を傾け、事業所としても様々な思いや願いを叶えることができるよう努めております。みやぎの杜に関わるすべての人とのご縁を大切にしながら「その人と何ができるか」を大切な視点とし、人とのつながり、地域とのつながりの中で事業所が地域の中で開けた事業所となるよう積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、JR東北本線岩切駅から東に車で10分程の住宅街に在り、軽量平屋建で3ユニットである。日常的に七北田川河川敷を散歩したり、近くの公園で花見や紅葉を楽しむことができている。「利用者の声に寄り添い、様々な願いを叶える」等のユニット目標を立て、入居者が娘の結婚式に参加したい思いに職員が付き添うなど支援している。コロナ禍は抗原検査をして面会をしていたが、3月からは感染予防の基本を守り面会の実施を行っている。目標達成計画の「地域との交流」については、新年度よりコロナ禍の対応が緩和される為、継続するとした。職員の資格取得には法人の勉強会や負担補助の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームみやぎの杜)「ユニット名 つばめ 」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念「自立と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」に基づき、地域に愛される施設であるよう取り組んでいます。ユニット毎に目標を掲げ、ふりかえりを行い、ケアや生活の質の向上に取り組んでいます。 | 法人理念を基に、ユニット目標の「会話を多く持って入居者に笑顔を多く過ごす頂く」等を事務所に掲示している。職員は、日常生活の関わりで本人の思いを汲み取り共有している。上半期と下半期に振り返っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 地域の行事(夏祭り等)や避難訓練等に参加させて頂いたり、保育園の行事に参加し、交流に努めていたましたが、コロナ禍で現在は中止となっています。事業所では2か月に一度新聞を発行し、事業所の生活の様子を地域の方やご家族に届けるようにしています。 | 町内会に加入しているが、コロナ禍のため地域行事の中止等で交流が行われていない。地域の方から入居に関する相談が有り対応している。「みやぎの杜新聞」は近所に住む家族や大家に届けている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域包括支援センターと連携をとり、児童の駆け込み110番や地域の困りごと相談所として役割を担っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度の運営推進会議では、活動や取り組みについての報告をさせていただきながら事業所への理解を深めるとともに、話し合いから得た意見は、次期の事業所の取り組みに活かしています。(現在は、コロナ禍の為、開催を中止して郵送しています) | コロナ禍で書面での郵送が続いている。日常の様子やコロナの感染予防対策、イベントについての状況等を記載して、地域包括職員や町内会長、家族等に届けている。コロナ対応の労いの言葉を貰っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 現在、コロナ禍の為、開催を中止していますが、運営推進会議に地域包括支援センターの職員等にも参加いただいていた。ケアサービスについて、市の担当者に相談したり、助言をいただきながら、取り組みについて伝え、協力を得ています。 | 市には入院に関しての相談や助言を貰ったり、生活の状況報告等をしている。包括支援センターに地域に住む一人暮らしの方の対応について相談している。保健所からディスプレイの手袋の支給があった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないケアに取り組むとともに、事業所内で勉強会、ミーティングを通じて職員への周知に努めています。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催し、不適切なケアについて振り返る機会を設けています。 | 職員から不適切なケア(グレーゾーンカード)についてアンケートを取り、身体拘束廃止委員会で集計し分析して対策を話し合っている。議事録を回覧して職員の共有を図っている。センサーマットは、本人と家族の了解を得て設置し、安全安心な支援に努めている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止についての理解を深めるよう、事業所内の勉強会、ミーティングなどを通じて職員の周知と注意喚起に努めています。 | 虐待防止マニュアルを職員に配布し、勉強会を行い振り返っている。馴れ合いの言葉使いから子ども扱いになったり、強い口調で委縮させないように取組んでいる。管理者は細めに声掛けし、負担軽減に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業所内や外部研修等で勉強会を行い、成年後見制度等について学ぶ機会を設けています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や制度改定時は、内容について説明を十分に行い、ご本人やご家族の不安を取り除くよう努めています。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご意見箱のほか、電話連絡や訪問時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、積極的に業務改善に反映するよう努めています。 | 面会時に家族の声を聴けるようにしている。座位が難しくなった時にリクライニング車椅子にして欲しい声に応えた。一人散歩で戻れない方に、GPS装着の相談を家族にしている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員との面談や法人で定期的に行っているアンケートの実施などで、意見を収集したり、話し合う機会を設けています。 | 面談や職員アンケートで聞いている。ホーム内の段ボール処理を法人施設の協力により改善した。老朽化したウツデッキは新しく交換し、安全で快適に利用している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人の能力にあわせながら役割分担を行うとともに、ご利用者と一緒に行うことを企画したり、職員がやりがいをもって働けるような環境を作るよう努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要な外部研修には参加できるよう機会を設けています。Zoomを活用した内部研修や事業所内の勉強会、ユニットミーティングを通して、一人ひとりのケアの質の向上に努めています。 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 各研修会などを通じて交流を図り、サービスの質の向上に向けた意見交換の場を設けています。(現在は、Zoom研修などで行っております) | 法人の研修会「利用者さんとの関わりについて」等で、他の事業所や医療関係者と交流した。ホームから「当たり前の事が出来るようにサポート」をテーマに発表した。訪問看護師に入居者の健康管理等相談している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 実態調査時等にて得た、ご本人の想いや考えをスタッフに周知し、ホームでの暮らしに慣れていただけるよう、細かな情報共有に努めています。また、現在の生活や関係性、ご本人やご家族の想いを継続できるよう、関係作りにも務めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前にご家族から要望やご本人の生活習慣などを伺い、ご利用者の不安等を傾聴し、信頼関係が作れるよう、対応には配慮しています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人が抱えている問題等で、優先すべき事項を考え、必要に応じて多機能的なサービスを提案しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者「と」共に何ができるのかを常に考えています。料理や体操、入浴時の洋服選び等、常にご本人が自己決定していただくように配慮しております。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、ご本人とご家族の時間を大切にして過ごして頂いたり、日々の生活の様子を伝えたり、ご本人と一緒に家に行くなど良い関係が保てるよう提案、工夫しています。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔住んでいた場所に出掛けたり、お友達と連絡を取り、遊びに来て頂いたりとの関係が途切れないよう人とのつながりを大切にしています。 | 抗原検査をして娘や孫、友人が面会に来ている。家族と園芸センターや故郷の女川に出かけている。福島の方と手紙で交流の方は、せんべいが送られてきた。年末に家に戻る方もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 少しでも不快な思いをする方がいないよう、日々の声掛けに気を配り、ご利用者同士が関係性を保ちつつ心地よく過ごせるよう配慮しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 以前ご利用されていたご家族が美容院をされており、ボランティアで定期的に散髪していただいたりと、関係性が今も続いています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、想いや希望、意向を把握するよう努め、職員のミーティング等で検討し、要望を叶えられるよう努めています。 | 入居時にバックグラウンドを確認し、家族や日々の会話などからも情報を得ている。食べたい希望の寿司は出前で取ったり、きりたんぼパーティは皆で作って味わったりしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの担当ケアマネより経過等の説明を受けるとともに、ご本人やご家族から話を伺って生活歴や生活環境等の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人がお話したことや行動したこと、身体状況の変化などを個人記録に記入し、把握に努めております。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃からご家族と情報交換を密に行っており、状態変化があれば、情報共有に努め、状況に応じた対応をしている。また、ご本人・ご家族の意向についての確認をしながら、課題抽出を行っており、介護計画の作成に活かしています。 | モニタリングを3か月毎に行い、本人や家族の希望が活かされ、6か月毎に見直しをしている。介護計画指標は書面にて伝えている。家事支援の継続では、食器洗いや洗濯物干しとたまたみが多い。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者の状態把握するために、スタッフ間の情報共有を密に行い、状態変化があれば都度、情報共有しながら状況に応じた対応をしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者、ご家族とのコミュニケーションの中でニーズをひろい、ホームだけのケアにとどまらず、理美容や、医療に関しても内科、精神科、歯科など多岐にわたり活用しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の一員として、出来る限り地域の方と交流、支援し合えるような関係性作りを心掛けています。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族の希望に沿うことができるようにかかりつけ医との連携を大切に、関係性を保つようとしています。 | 訪問診療は26名が利用している。夜間や体調変化時の対応も有り、オンコール体制が取れている。訪問看護師は週2回来訪し、健康管理をしている。入居者は訪問歯科診療と口腔ケアの助言を受けている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎朝、前日の日勤帯及び夜間帯の報告を行うことで、早期の対応が必要な方の状況を把握しています。看護師と密に連携を図り、適切な受診やその他の観察が行えるように対応しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 介護サマリーにて全職員がいつでも情報を提供できる体制を作っています。また、こまめに病院に足を運んで、入院の不安を解消できるよう努め、早期に状態や治療内容を医師から説明いただき、退院後の生活をイメージして受け入れの体制を考慮しています。 | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期については、入居時に指針の説明をしています。実際にその場面において、ご本人やご家族の意向を確かめながら、事業所でできることを多職種によるチームで検討し、対応を行っています。 | 入居時より指針を説明して、人生会議で本人や家族の意向確認をしている。看取りに関する指針に基づいて、医師や看護師の連携のもと支援に取り組んでいる。今年度は10名の看取りを行った。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員全員がマニュアルをもとに定期的に訓練を行い、万が一に備えています。 | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練で緊急時の職員の体制を再確認するとともに、地域の方々に参加いただいで、役割分担など具体的な協力をお願いしています。 | 夜間想定避難訓練を年2回実施している。避難通報や避難誘導は目的地の公園まで予定通り行えた。「点呼確認に時間がかかった」等の反省と、大家参加の見守りは有ったが、近隣住民の協力体制を課題としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉使いやご本人に対する接し方などに配慮し、なるべくご本人の意思で決められるよう声がけをし、おひとりおひとりの意見を尊重する様に対応しています。 | 入居者を呼ぶ時は「さん」付けである。居室には、ノックや声掛けの意思確認をして入室している。プライバシー研修を行い、言葉使いや声掛けを自分の家族だったらとの思いで支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や想いに耳を傾ける事に重点を置き、何をすることも必ずご本人に確認をとり、または選択していただくように心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | コロナ禍ですが、ご利用者の声に合わせてレクリエーションや散歩、ドライブ、座ってお話をするなど、今できる活動について配慮し、柔軟に対応をしています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出の際は化粧をしたり、昔好んで着ていた服装に近いイメージの洋服を選んで着ていただくなどの工夫をしています。また、ご本人の希望に応じて顔のパック、保湿、マニキュアを塗るなどおやれができるよう配慮しております。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理や片付け、味見などご利用者ができることを一緒に行っています。また、お一人おひとりの好みに合わせて、普段の食事ではなかなか難しいような食事も誕生日やクリスマスなどのイベントで楽しんでいただいています。 | 法人の栄養士や訪問看護師から助言を貰い、献立と調理は職員がしている。昼食の副食は外注である。誕生日の方の希望を取り入れた寿司やケーキが喜ばれている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人おひとりの食事の摂取量、水分量、食の嗜好、食習慣を把握した上で対応しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自分でできる方は声がけ見守りをし、できない方に関しては介助にてケアを行い習慣としています。また、訪問歯科による口腔内衛生チェックやご指導を頂いております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意や便意についてそれぞれの訴えやサインを見逃さないよう留意しながらトイレへの誘導を行い、対応しております。また個々の排泄パターンを理解し、個々に合わせた対応をすることで不快にならないよう配慮しています。 | 身体状況に応じて、座位保持の方はトイレでの排泄を基本にし、ソワソワ行動やタイミングの声掛けで誘導している。夜間はベッドでの交換が多く、ポータブルやセンサー使用で安全誘導の方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品、水分量など便秘の予防と改善に努めています。また、散歩や体操などのレクリエーションを通じて身体を動かす機会を設ける工夫を行っています。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | ご本人の意向に添い、入浴したい時間に入って頂いています。入りたくない場合には無理せず、時間を変更したり、別日に入浴するなど臨機応変に対応しています。また、足浴等も行っています。 | 週2回の入浴としている。温度は38～40度で個別に対応している。入浴時は殆どが支援が必要で、重度の方は機械浴で2人介助を行っている。檜風呂があったり入浴剤や柚子を入れて楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調の変化に配慮し、日中の休息や、起床・入眠のタイミングを各個人に合わせています。室温コントロール、寝具の清潔や調整も心掛けています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医との連携のもと、その人の状態に応じた薬を服薬、副作用の有無を把握し、日々の体調管理に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食器拭きや調理、洗濯を手伝っていただいたりと、特性を活かした役割を持って過ごしていただいています。また、会話の中から行きたい場所を聞くなどして外出に繋げたり、花を植えるなど生活を通じた楽しみごとの支援を大切にしています。 | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご本人の望んでいること、記念日イベントなどスタッフ間の連携を図り実行しています。また、突発的なご要望に対しても、応えられるように個別で対応するよう心掛けています。 | 紅葉を見にドライブをしたり、多賀城のイルミネーション見学に行った。天気の良い日には、隣の公園や七北田川河川敷を散歩している。ウッドデッキでお茶や日光浴を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望される方にはご本人が管理できる程度のお金を持っていただき、必要に応じて買い物に出掛け、ご自分でお会計をしていただくよう支援しています。(現在はコロナの流行状況等をみながら買い物の支援を行っています) | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の要望がある時にいつでも電話ができるように支援しています。ホームでのご様子がわかるよう、写真を貼付し定期的にご家族へお便りを郵送しています。Zoom(テレビ電話)での面会も促進していきます。 | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感を味わえる設え作りに配慮しています。また、個々の体質と体調に合わせた細やかな室温調整や衣類の調整を行っております。埃や臭いには気を配り、汚れ物ができた場合は速やかに処理するよう心がけています。 | ホールにはカレンダーや時計が見易い場所に設置されている。テレビを見たり、ソファでゆったり過ごしている。夏は七夕の吹き流しを作って飾ったり、秋には干柿作りをして皆で食べたり等、季節を感じて過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビを見たい方はソファに座り鑑賞されたり、一人になりたい方は和室で休まれたり、それぞれが思い思いに過ごせるような空間を確保しています。また、スタッフが間に入って、ご利用者同士の会話を繋ぐなど、楽しく過ごせるように工夫しています。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 必要な備品等に関して、ご本人が大切にいらしたものの、馴染みのあるものを自宅から持参していただき、居心地のよい環境作りに努めています。 | 本人、家族と相談して馴染みの筆筒やテレビを持ち込み、位牌を置いている方もいる。居室では、テレビを見たり、ゆっくり休んで居心地良く過ごせている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホーム内や居室は安全かつ安心して暮らせるよう配置を工夫し、お一人おひとりの残存機能が活かせるような環境整備を心掛けています。 | | |